

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 104-0042
 住 所 東京都中央区入船2丁目1番1号 入船住友ビル
 氏 名 味の素製薬株式会社 代表取締役社長 豊田 友康 印
 (代理人) 創薬研究センター長 近藤 信雄
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	味の素製薬株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区鈴木町1番1号		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	L	学術研究, 専門・技術サービス業
	中分類	71	学術・開発研究機関
主たる事業 の内容	医薬品の研究開発		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		4,113 k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	創薬研究センター 研究管理部 研究管理グループ
		所在地	川崎市川崎区鈴木町1番1号
		電話番号	044-210-5851
		FAX番号	044-210-5880
		メールアドレス	
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成23年度 ～ 平成25年度 (報告年度 平成23年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号及び第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号及び第3号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号及び第3号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号及び第3号のとおり
備考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 6,778 t-CO ₂ (調) 6,778 t-CO ₂	(実) 6,211 t-CO ₂ (調) 6,211 t-CO ₂	(実) t-CO ₂ (調) t-CO ₂	(実) t-CO ₂ (調) t-CO ₂	(実) 6,574 t-CO ₂ (調) t-CO ₂
削減率		(実) 8.4 % (調) 8.4 %	(実) % (調) %	(実) % (調) %	(実) 3.0 % (調) %

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の活動量	単位				
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量原単位等の値					
削減率		%	%	%	%

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	空調設備の停止や照明の削減、空調運転条件の変更、夏季温度設定の変更、サマータイムや夏季休暇の導入等により大幅に温室効果ガスを削減した。
第2年度	
第3年度	

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、第2号、第4号該当者等)	計 画	<p>【一般管理事項】各主要施設の管理体制の構築 【空調調和設備、換気設備】実態把握、削減案の検討、実測に基づいた調整 【受変電設備、BEMS】不要な場合の変圧器停止、稼働状態に応じた適正運転等 【ボイラー】最低限必要な運転可能となるシステムの検討 【照明設備】間引き等実施、人感センサーの導入、高効率型の検討 【給湯設備】不要な設備の停止、効率的な運営可能となる経路の検討 【事務用機器】消費電力の把握、節電タイプを導入 【建物】必要性の勘案、新規設備の導入</p>
	第1年度	<p>【一般管理事項】設備管理手順書の作成を開始した。 【空調調和設備、換気設備】設定温度の変更、使用台数の削減等を行った。 【照明設備】間引きを実施した。更衣室、図書室等に人感センサーを導入した。 【給湯設備】不要な設備の停止を行った。 【事務用機器】 コピー機を省エネタイプに更新した。</p>
	第2年度	
	第3年度	
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	
第3年度	

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	環境負荷の少ない研究開発活動を目指し、年に1回以上の環境側面の見直しを行う。 廃棄物の分別・リサイクル・減量を徹底する。 月に1回以上の環境会議による、EMS活動の共有化・実施を行う。定期的に、教育を実施し、環境意識の啓発や非常事態訓練を開催する。 緑のカーテン等の緑化の推進を図る。 各自の私生活のレベルにおいてもエコ活動を推奨している。
第1年度	環境側面の見直しを行った。 廃棄物の分別・リサイクル・生活ごみの減量を行った。 フロン漏洩等の非常事態訓練を行った。 夏季、緑のカーテンを設置した。
第2年度	
第3年度	

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	6,361	t-CO ₂
(調)	6,361	

イ 第3号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等单位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
創薬研究センター	川崎市川崎区鈴木町1番1号	7114	医学・薬学研究所	6,361 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	
300～400kl 未満	
200～300kl 未満	
100～200kl 未満	
100kl 未満	

(3) 事業所等单位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--